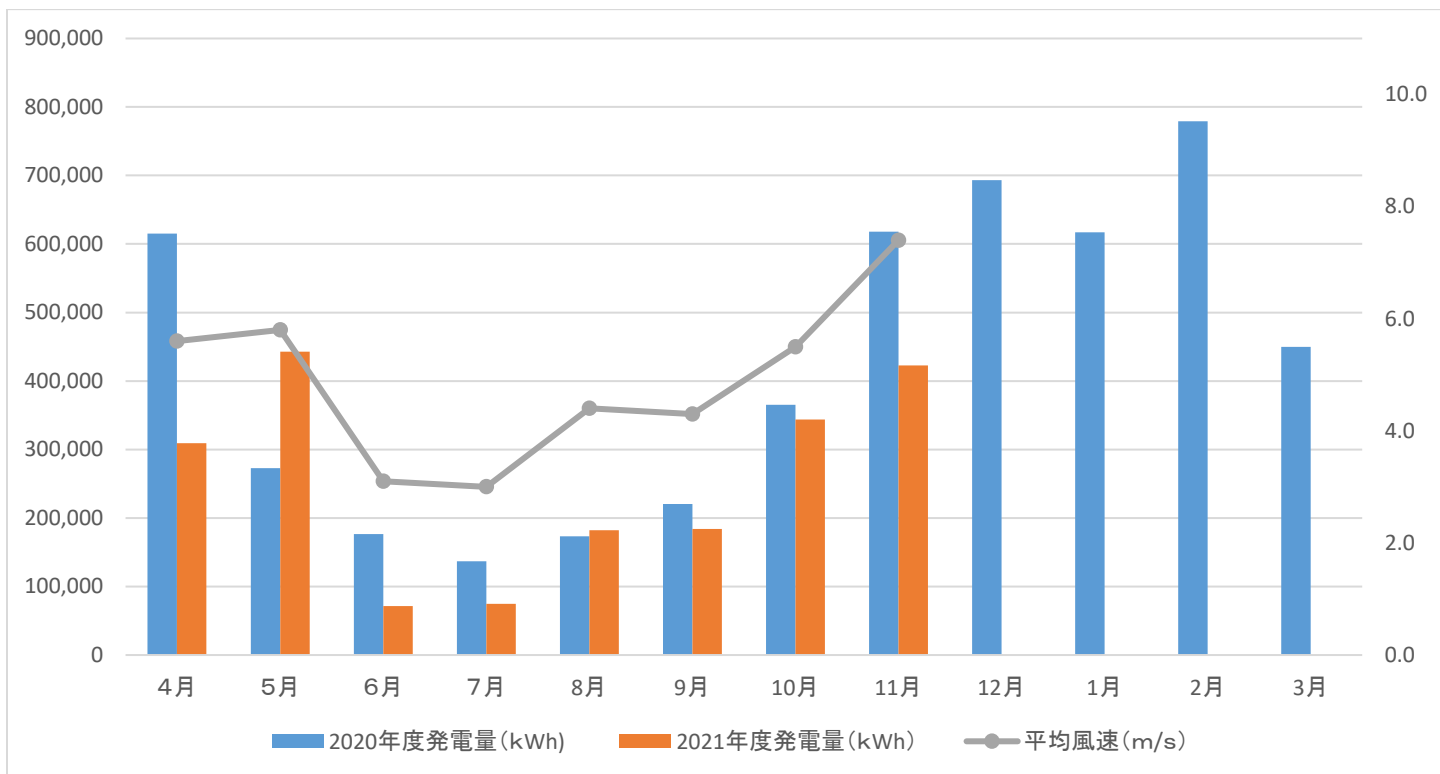


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 2021年度発電実績



11月度運転状況について

○冬季に向かい日本海側は風の強い季節になっています。しかし、前年に比べては0.2m/s 低くなりました。

○強風の影響によるエラー停止が数回発生したため稼働率が85.7%と低くなりました。

○発電量は、前年比68.4%と低くなっています。



毎年、12月に入るとハタハタが産卵のために接岸します。そのハタハタを狙って多くの釣り人でにぎわいます。写真は秋田魁新聞12/20にかほ市金浦漁港の様子です。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	309,276	5.6	92.4
5月	443,029	5.8	98.0
6月	71,255	3.1	99.0
7月	74,604	3.0	90.4
8月	182,051	4.4	62.5
9月	184,228	4.3	96.4
10月	343,577	5.5	97.1
11月	422,644	7.4	85.7
12月			
1月			
2月			
3月			

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会を開催しました

12月20日10時30分より、2021年度第2回幹事会をにかほ市役所象潟庁舎で開催しました。初めに、連携推進協議会幹事会共同代表の本田雅之副市長よりご挨拶を頂きました。つづいて、同じく共同代表の半澤彰浩神奈川専務理事を議長として議事審議を行いました。

主な議案は、風車「夢風」の運転稼働状況報告、2021年度の間中まとめと2022年度方針素案、にかほ市の脱炭素化に向けた研究会の設置案、デポーにかほフェア開催計画、にかほ院内風力発電の進捗報告、「にかほ市自然エネルギーによるまちづくり基金」執行状況、ゾーニングマップに基づく条例制定に向けた進捗報告です。

2021年度活動の間中まとめの中で、7月のオンライン交流会は今まで組合員リーダーツアーに参加できなかった大勢の組合員が参加できた、画面でも会う事ができたことで今後の活動につながったなど組合員から良い評価であったことを共有しました。

にかほ市のまちづくり基金執行状況のご報告では、今年度の充当事業として新たに地産地消食育事業として、小中学校の給食に地元の食材を使って鱈鍋などを提供することに使われるとのことです。また、教育環境整備事業として中学校の生徒用机・椅子を購入していますが、学校の教室に「この教室の机と椅子には風力発電事業者からの協力金が使われています」というポスターを掲示し基金の活用を情宣しているとのことです。



前列左から、にかほ市農林水産部長・村上 司、企画調整部長・佐藤喜仁、副市長・本田雅之、生活クラブ神奈川専務理事・半澤彰浩、東京常勤理事・大石冬刀、千葉常務理事・山崎倫一、後列左から、にかほ市まちづくり推進課長・加藤潤、まちづくり推進課・高橋潔、建設部長・阿部光弥、生活クラブ埼玉常勤理事・鳥山直人、都留文科大学教授・高橋洋、龍谷大学教授・大島堅一、名古屋大学教授・丸山康司、グリーンファンド秋田事務局長・鈴木伸予、生活クラブエナジー・森田里未

夢風ブランド開発生産者連絡会を開催しました

12月20日16時より、2021年度第1回生産者連絡会をにかほ市金浦公民館で開催しました。

伊藤製麺所の伊藤実代表を議長とし議事審議を行いました。

主な議案は、2021年度活動の中間まとめと2022年度活動方針素案、デポーにかほフェア開催計画、班個配7週企画にかほの物産取組等です。

2021年度活動の中間まとめでは、夢風ブランド品の生活クラブでの取組実績や、日南工業と生活クラブ千葉とのオンライン学習会、芹田営農組合のお米を「きりたんぼ」の原料に切り替えた事などを共有しました。

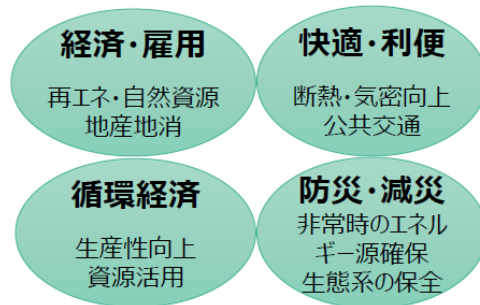
デポーにかほフェアでは、生産者よりご提案いただいた新規品目を含む取組み品目を確認しました。また、生産者来所計画、デポー担当者研修について確認しました。

班個配7週企画(2月3回)では、四つ葉ネットワーク「無添加甘酒」、日南工業「秋田味噌」、秋田ニューバイオフィーム「きりたんぼ」「めんこいなりんごジュース」を取り組みます。生活クラブへの納品方法等を再確認し、検品を徹底しトラブルなく行えるよう確認しました。



左から、日南工業㈱営業部・野崎哲夫、伊藤製麺所代表・伊藤実、道の駅ねむの丘支配人・佐賀正文、道の駅ねむの丘物産係長・佐々木勝美、(有)三浦米太郎商店専務取締役・三浦大輔、芹田営農組合組合長・遠藤豊、にかほ市まちづくり推進課・高橋潔、まちづくり推進課長・加藤潤

国が掲げる 2050 年カーボンニュートラルを達成するために、再生可能エネルギーなど地域資源を最大限に活用することが求められています。2021 年 6 月には「地方脱炭素ロードマップ～地方から始まる、次の世代への移行戦略」が決定されました。しかし一方で、再エネの乱開発等で住民とのトラブルも発生し、行政による再エネ開発を規制する条例制定等が増えています。再エネの最大限の活用には、地域の活性化や課題の解決に貢献できる再エネを進め地域住民との社会的合意形成をすすめることが求められています。



12 月 20 日、21 日に、生活クラブの連携推進協議会開催に合わせて、エネルギー関係の研究の第一人者である、都留文科大学地域社会学科教授の高橋洋氏、龍谷大学政策学部教授の大島堅一氏、名古屋大学大学院環境学研究科教授の丸山康司氏がにかほ市を視察しました。生活クラブとの取り組みについて、にかほ市、芹田自治会、夢風ブランド生産者連絡会、伊藤製麺所、(株)飛良泉本舗にご協力いただきヒアリングを行いました。



芹田自治会でのヒアリングの様子
左から竹花会長、荒川さん、遠藤さん

ヒアリングを通じて、先生方からは「再生可能エネルギーを通じた地域貢献の事例の中で、地域の生産者の品物を都会で共同購入するという仕組みは生協ならではの取り組みで全国でも類がない」「エネルギーを機にした人と人とのつながりがキイとなっていて、地域住民の方も楽しみながら交流している」「お互いが WinWin の関係が素晴らしい」など、今後もこの取り組みに注目していきたいとの評価を頂きました。

にかほ市からは、生活クラブとの付き合いの中で、再エネによる地域貢献を実感している。

生産者からも「夢風ブランドがあると生活クラブ組合員と共同開発などより密に交流できる」「地元の特産品が首都圏にでていくことで地元も潤う」等の声がありました。

「家電買い換えゲームで省エネ体験」に参加しました

11 月 27 日、NPO 法人すぎなみ環境ネットワーク主催の「家電買い換えゲームで省エネ体験」にグリーンファンド秋田の鈴木が講師として参加しました。

ゲームは、家電や自動車の買い替え、太陽光パネルや太陽熱温水器、蓄電池の設置などをチームで話し合って購入や廃棄をすすめます。その結果、買い替えにより節約できた 10 年間の光熱費・ガソリン代や CO2 削減量を計算し見える化します。

太陽熱温水器の CO2 削減効果が高い事や、参加者から温水器を後付けして気持ちの良い暮らしをしていることなどを皆で情報共有できました。

